H28.12.14

医学教育モデル・コア・カリキュラム

平成 28 年度改訂版（案）

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

○　医師として求められる基本的な資質・能力

１　プロフェッショナリズム

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道（みち）を極めていく。

２　医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を身につけ、根拠に基づく医療<EBM>を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

３　診療技能と患者ケア

臨床技能を磨くとともにそれらを用い、また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践する。

４　コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者およびその家族と良好な関係性を築き、意思決定する。

５　チーム医療の実践

医療・保健・福祉ならびに患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。

６　医療の質と安全の管理

患者および医療者にとって、良質で安全な医療を提供する。

７　社会における医療の実践

医療人に求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する。

８　科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考も身につけながら、学術・研究活動に関与する。

９　生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続ける。

各診療科

個別の学習目標設定

–学習契約–

　このシートは臨床実習の最初に、教員の先生と行うオリエンテーションで使用するものです。最初に教員の先生から該当科の学習目標について説明がありますので、それを参考にしながら、「自分自身の（独自の）学習目標」を初日に書いて、教員の先生にコピーを提出してください。この学習目標を基に実習を進めていきます。
※教員の先生方へ：このシートは学生と協同して学習目標を設定する際にご使用ください。先生方が期待する学習目標と、学生が期待する学習目標との擦り合わせというイメージです。またこの設定のために、必ず臨床実習の最初にオリエンテーションを行って頂きますよう、お願いいたします。

診療科　　科

臨床実習における学習目標（学生が教員と共に記入）

1.

2.

3.

シラバスに記載されている臨床実習での教育目標

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

…

＜記入例：循環器内科＞

この科の臨床実習の学習目標（学生が教員と共に記入）

1. 心電図の基本的な所見を読めるようになる
2. どのような場合に循環器内科にコンサルトしたらよいかがわかるようになる
3. 心不全の急性期の管理を手伝えるようになる
4. 自分が循環器科に向いているかがわかるようになる

＜記入例：精神科＞

この科の臨床実習の学習目標（学生が教員と共に記入）

1. 鬱病の疑いのある患者さんが自殺しないような医療面接が出来るようになる
2. どのような場合に精神科にコンサルトしたらよいかがわかるようになる
3. 精神科病棟での患者さんの管理を体験する

臨床実習で観察して学んだこと

臨床現場には様々な社会背景を持つ患者さんに対して、たくさんの医療職が様々な業務を行っています。その様子を観察する中で、気づいたことを記録しておきます。医師と患者の関係性等、様々な視点で観察したことをフィールドノーツの形で記録しておくことは、自分自身の医療に対する視点を知ることに役立ちます。以下の問いはフィールドノーツをつける際の問いの一例ですが、これ以外にも自由に観察したことを記録していきましょう。また必要に応じて、指導医や同級生との振り返りにも使用すると学びが深まります。

診療科　　科

1. 今回の臨床実習で得た診療科のイメージはどのようなものですか？

2. 今回の臨床実習で特に印象に残った診療場面を記述します

3. なぜその場面が印象に残ったのでしょうか？

4. その他、臨床現場を観察して気づいたことを自由に記述しておきましょう

○○科　実習日誌

	日 （月）	日 （火）	日 （水）	日 （木）	日 （金）	休日・ 当直等 日
教員サイン （出席確認）						
今日の 目標						
実習内容						
今日の 振り返り（学べたこと・反省点等）						

※各大学で実習内容を記入したものを学生に配布して下さい

担当入院症例病歴要約

提出 No.　　診療科名　　病院名

患者イニシャル　　入院日　　年　月　日

患者年齢　　歳，性別 男性・女性　　退院日　　年　月　日

受持期間 自　　年　月　日

至　　年　月　日

転帰：□治癒　□軽快　□転科(手術　有・無)　□不変　□死亡(剖検　有・無)

フォローアップ：□外来で　□他医へ依頼　□転院

確定診断名（主病名および副病名）

①

②

③

【主訴】

【現病歴】

【既往歴】

【生活社会歴】

【家族歴】

【主な入院時現症】

【主要な検査所見】

プロブレムリスト

＃1.

＃2.

＃3.

【入院後経過と考察】

＃1.

#2.

#3.

【退院時処方】

【総合考察】

【本症例を通して自身が感じたこと】

記載者:　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当教員: 氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当外来症例一覧

No.	診察日　　年　　月　　日			
1	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日　　年　　月　　日			
2	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日　　年　　月　　日			
3	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

No.	診察日　　年　　月　　日			
4	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

No.	診察日　　年　　月　　日			
5	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

No.	診察日　　年　　月　　日			
6	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

Mini-CEX(簡易版臨床能力評価)

学生番号		学生氏名	
診療科	科	外来・入院・救急・当直・往診・その他( )	
症状または疾患名			
日 時	年 月 日	時 間	: ～ :
症例の複雑さ	易 ・ 普通 ・ 難 理由:	Mini-CEX の経験	今回が 初めて・2回目・3回目・( )回目

	1 2	3	4	5 6	評価不能
1.病歴(病状の把握)	□ □	□	□	□ □	□
2.身体診察	□ □	□	□	□ □	□
3.コミュニケーション能力	□ □	□	□	□ □	□
4.臨床判断	□ □	□	□	□ □	□
5.プロフェッショナリズム	□ □	□	□	□ □	□
6.マネジメント	□ □	□	□	□ □	□
7.総合臨床能力	□ □	□	□	□ □	□

医学生として望まれる能力を満たす場合に 4 を、それ以上の場合に 5(学生としては優秀)、6(研修医と遜色ない優秀さ)を、ボーダーラインで 3 を、能力が明らかに劣る場合に 2、1 を付ける。

「評価不能」は、観察していなくてコメントできない時に付ける。

特に良かった点(観察者記入)

改善すべき点(観察者記入)

観察者と合意した学習課題(学生記入)

観察時間: _____分　　フィードバックの時間: _____分

評価者サイン:_____　　学生サイン:_____

【Mini-CEX 評価者の先生へ】

Mini-CEX（短縮版臨床評価法）は、学生の診察技能評価のため臨床的な設定（入院病棟、外来、当直、救急等）において、学生が患者と関わる様子を20分程度観察します。

【評価者】

原則として、教員が分担して評価して下さい。ただし指導体制上実施が困難な場合は、医員、後期研修医、大学院生も可とします。

【目的】

①学生が実習中に自分の到達度や、どのような事が不足して何を学習しなければいけないのかを定期的に把握するため行います。②各診療科が総括評価の参考とします。

【評価の基準】

1. 病歴：①初診外来の場合は現病歴で聞くべきこと（症状の部位・性状・程度・経過・状況・増悪寛解因子・随伴症状・患者の対応）を聞いている。最低限聞くべき他の項目（既往歴・アレルギー・内服薬・女性の月経と妊娠）を聞いている。状況が許せば聞くべき他の項目（生活状況・家族状況・嗜好等）を聞いている。正確で十分な情報を得ている。
2. 入院中の患者の場合はでその時点で把握しておくべき情報をしっかり聞けている。
3. 身体診察：その時点で取ることが望ましい項目をチェックしている。鑑別診断を立てるために取るべき項目をチェックしている。患者に何をするかを説明し、不快感や遠慮に配慮している。
4. コミュニケーション：患者が話しやすいように話を聞いている。視線や表情や姿勢等の非言語コミュニケーションで不快感を与えていない。患者の解釈モデルや心理社会面についても情報を引き出している。患者の理解度を確認している。
5. 臨床判断：診断的検査を適切に選択し、指示・実施している。患者にとっての利益とコスト・リスクを考慮している。可能性の高い疾患、見落としてはいけない疾患を考えている。
6. プロフェッショナリズム：患者に対して敬意、思いやり、共感を示し、信頼関係を形成している。患者の不快感、遠慮、守秘義務、個人情報につき注意を払っている。
7. マネジメント：適切な治療方法を選んでいる。アセスメントとプランを患者が納得いくように説明している。患者が何に注意したらいいか、次にどういう行動をとったらいいかを説明している。
8. 総合：優先順序を適切につけている。タイミングがよい。無駄が少なく迅速である。患者も評価者も納得でき、有効な判断をしている。観察者がいなくてもこの患者を一人で診察できる。

※4、6、7については、患者診察の後、学生の考えを述べてもらうことで評価しても構いません。

【評価方法】

1. 学生と患者のやりとりを直接観察してください。診察室に同席するか、カーテンの影に隠れているかは自由です。できるだけ学生と患者の両方の表情を観察してください。学生から質問されたとき、または学生が自分の判断で患者に説明したことに重大な誤りがあるときを除いて、基本的には評価者は学生の診察に口を挟みません。
2. Mini-CEXを記入して下さい。1から6まで点をつけますが、3点以下は学生が標準に達するような改善が必要であることを意味します。
3. できるだけ間を置かずに、印象が残っているうちに、診察について学生に直接フィードバックをしてください。“ダメ出し”だけではなく、良かった点も挙げてください。
4. 評価表に指導医と学生のサインを記入してください。
5. 学生に「コピーして原本を診療科のmini-CEX統括担当者に提出すること」と指示してください。

症例の担当に関する評価表

担当患者さんへの関わりについて教員の先生に評価してもらうための評価表です。各科で教員に依頼して、自分の診療活動について評価してもらって下さい。
※学生が担当した患者さんの担当医をされている教員の先生方へ:学生の患者への関わりに関して、以下の評価基準・評価方法を参考に評価ください。

場面:救急外来・入院患者・一般外来・当直・往診・その他(　　)
科別:　　日時:　　年　　月　　日

患者 ID: 症例の複雑さ;易　普通　難	1	2	3	4	5	6	U/C
1. カルテ記載	□	□	□	□	□	□	□
2. 臨床診断	□	□	□	□	□	□	□
3. 診療計画	□	□	□	□	□	□	□
4. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□
5. 総合	□	□	□	□	□	□	□

望まれる能力のある段階を4として、ボーダーラインが3、能力が明らかにそれ以下のとき2,1、それ以上あるとき5,6をつける。U/Cはコメントできないとき

良かった点	改善すべき点

評価者と合意した学習課題

評価者所属　　氏名

学生サイン

多職種による学生評価（360° 評価）

「看護師長を含む看護師 2 名＋その他の医療専門職の方 1 名」の計 3 名に評価をしてもらってください。

※評価者の方へ：近年、医学生の臨床実習が診療に参加する形になってきています。
学生の評価を皆様の視点からもお願いできればと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

診療科＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、よかった点をあげてください。

2. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。

3. その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所属＿＿＿＿＿＿＿＿ 職種＿＿＿＿＿＿＿＿ 評価者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

患者さん（含模擬患者）からの感想

担当した患者さん（もしくは模擬患者さん）に以下のフォーマットに従って感想を書いてもらいます。
※このシートを受け取った患者（もしくは模擬患者）さまへ：学生教育にご協力いただきありがとうございます。担当させていただいた学生についてコメントを頂けますと幸いです。

診療科＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇臨床実習期間中のこの学生の行動について、自由に感想をお聞かせください。

学生の名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記入者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ローテート終了時の振り返り

このシートは、臨床実習の最後で教員の先生とのまとめに使用するものです。最初に立てた学習目標を基に、自身の臨床実習を振り返ります。
※教員の先生方へ:このシートは臨床実習のローテート終了時の学生評価を行う際にご使用ください。

診療科　　科

個別の学習目標設定(学習契約)で記入した臨床実習における学習目標

1.
2.
3.

a)今回の実習で学んだ知識・技能について書いてください

b) 医師としての姿勢について自分が気づいたことを書いてください

c) 当初立てた学修目標(上記)の達成度はどのくらいですか？

d) この臨床実習で気づいた自分自身の課題およびその克服に向けた自己学習計画を書いてみましょう

指導医のサイン　　月　　日

診療科終了時の指導医による評価

診療科終了時、教員の先生方に実習の評価をしてもらいます。
※教員の先生方へ:学習契約で学生が自ら立てた学習目標を参考に、学生の評価をお願いいたします。この学生が将来立派な医師になり、一人で患者を診察するようになることをイメージしていただき、是非建設的なご意見をお願いいたします。

診療科　　科

個別の学習目標設定(学習契約)で記入した臨床実習における学習目標
(学生が記入)
1.
2.
3.

1. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学習目標を基に、よかった点をあげてください。

2. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学習目標を基に、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。

3. その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

日時　　指導医のサイン